

1. 滑走路処理容量とは

滑走路処理容量とは、ある時間内に滑走路に発着できる能力(航空機機数)のことをいいます。

実際に発着できる航空機機数は、上空(空域)での条件や滑走路の配置、気象条件、地上走行の状況によって変わります。

ここでは、抜本的な方策を比較検討するために、滑走路に離着陸する場面に着目して、その回数(滑走路処理容量)を試算しました。

なお、滑走路使用方向によって能力に差がある場合、安定した運航を確保する必要があることから、能力の小さい方を滑走路処理容量とします。

滑走路処理容量の算定の方法

滑走路処理容量の算定は、滑走路の運用をモデル化して行います。

この場合、「★運用間隔」という概念を導入して、算定を行いました。

算定方法

- 運用間隔は、先行機・当該機・後続機(連続する3機)の離陸・着陸の組み合わせにより設定(2×2×2の8通り)します。
- それぞれの組み合わせ毎の運用間隔(T秒)を算定します。
- それぞれの組み合わせの発生確率と、それぞれの運用間隔から求められた期待値(秒数)から、1時間あたりに処理する発着機数を算定します。

★運用間隔とは帯図(航空機の状況を時間の帯に表したもの)において、当該機の行動開始から後続機の行動開始までの間隔であり、この間隔が確保されれば後続機の出発もしくは到着が可能となることから、当該機の処理が終了したこととなる。

